第２回四日市市中心市街地活性化推進方策検討会議　記録

■日時：平成27年12月25日（金）13：00～15：40

■場所：四日市商工会議所　３階　中会議室

■出席者：
委員
有賀隆委員長（早稲田大学 理工学術院 教授）
岩崎祐子委員（四日市大学 経済学部 教授）
岡田邦彦委員（Ｊ．フロントリテイリング株式会社 特別顧問）
黒部三樹委員（三井不動産株式会社中部支店 次長）
小柴正浩委員（ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン株式会社 代表取締役社長）
恒川和久委員（名古屋大学大学院 工学研究科 准教授）
ゲストスピーカー
阪早苗氏（すわ公園交流館運営協議会委員）
水谷武生氏（諏訪商店街振興組合専務理事）
アシスタント
田中智氏（早稲田大学 理工学術院 建築学専攻）
行政職員
田中市長、藤井副市長
政策推進部　舘部長、荒木課長／市民文化部　小林理事／都市整備部　川尻課長／
教育委員会　松岡参事／商工農水部　須藤部長
事務局
商工農水部　佐藤次長、秦副参事・課長補佐、内糸課長補佐、田中主幹
スペーシア　浅野、櫻井

■議事：
１　市長挨拶
２　中心市街地活性化推進方策について
（１）市民ニーズ及び関連事例について
（２）中心市街地の交通・インフラ及び地価について

■意見交換
＜市長挨拶の後、委員より意見＞
Ａ委員
・市政アンケートから交流人口増加の必要性はなかなか出てこない。市民の要望はどうしても福祉施設の充実や高齢化対策重視に重点が来る。商業者の立場からすると、中心市街地に出店できない理由は来街者・交流人口が少ないからである。
　私は、「にっぽんど真ん中祭り」に15年間関わっているが、「まちづくりはまつりから」を実感している。ソフトで交流人口を増加させる方策が重要だと思う。
市長
・私もその通りだと思っている。拠点づくりなどのハードも重要だが、様々なソフト事業でマグネット式につないでいくことが必要だと思っており、まつりもソフトの一つで、四日市独自のものが必要である。交流人口の拡大の延長線上に定住促進があると思っている。

＜中心市街地活性化推進方策について意見交換＞
委員長

・本日は、次の第３回においてテーマ設定していくために様々な視点からご意見をいただきたい。
・ここ 15 年くらいの全国的な動きとして、図書館が駅周辺の拠点施設として整備されており、整備の仕方としても単体、複合化、市街地再開発事業など様々な形で整備されている。日常的な目的型の施設として図書館を中心とした拠点づくりが行われている。
・前回の資料で交通の状況、図書館や文化会館をはじめとした公的施設の概況について資料が提供され、本日の資料でも 28 ページで、近鉄四日市駅を中心に中心市街地における公的な施設の分布図も参考になる。さらには大四日市まつりをはじめとして市民が主体となった祝祭的なイベントや行事、伝統行事なども年間を通して行われている。こうしたイベント当日はにぎわっているが、日常的な人口の増加につながっていないのも課題であろう。
・これらハード・ソフトを活用して過不足がないか、あるいは我々は「相互に編集していく」という言葉を使うが、それぞれのアクティビティ（活動）をどのようにつなげていくかなどについてご意見をいただきたい。まずは、ゲストスピーカーの方に話題提供をいただき、その後に意見交換をお願いしたい。

〇ゲストスピーカーのお話し
Ｆ氏
・文化会館の運営に関わらせていただいている。文化会館では主にアウトリーチ活動の企画に関わり子ども達に生演奏の音楽をお届けするなど、行政の傍らで市民と身近な活動を 10 年程してきている。4 年前には文化会館 30 周年記念事業として、まちなかを活性化するイベントとして四日市 JAZZ フェスティバルというイベントを企画した。最初は手探りで、滋賀県の琵琶湖などで行われたイベントのまねから始めた。初年度は 7000 人であったが徐々に来場者が増え、4 回目の今年は 2 万 3 千人来場した。
・市民の認知度が増え、名古屋や大阪からの問い合わせもあるなど反響もあるが、開催日が土日で日曜日に食事の場所がない、名物のとんてきを食べる場所がないなどの問合せもあった。さらに市民としてみんなで盛り上げるイベントになればいいと思っている。また、日常では「便利だけど楽しくない」「休憩できるところがない」「ぶらりと遊びに行ける図書館など公共の施設があればよい」「屋根のない場所では雨の時に逃げるところがない（アーケードがある諏訪商店街を会場にしたい）」などの意見があった。過去にはＪＲ四日市駅前を会場にしたが、日影がない、店舗がないなどの意見も出て今年はやめてしまった。また毎回「くすの木パーキングの上を有効利用できないか」という意見が出ている。
・私たち市民としては、JAZZ フェスティバル当日に打ち上げ花火のように人が来てくれるのはうれしいが、その開催日だけでなく日常から商店街に来てもらえるようになってほしいと願って活動している。
委員長
・まち中の居場所をつくるのは全国各地で行われているが、問題はその質である。まち中に普段着で行けるのは重要だが、それと同時におしゃれをして出かける特別な場所でもある。JAZZ フェスティバル当日は普段の場所が特別な場所に変わるが、日常になると魅力は無くなる。普段の場所をどのように魅力にしていくかが 1 つの課題だと思う。
・くすの木パーキングの上部は魅力的だと思うが、なかなか活用できにくい。間違いなく都市の景観軸となっており、上部の有効活用とともに周辺とのネットワーク化も重要だと思う。

Ｇ氏
・今の中心市街地はにぎわいを通りこして酒盛り場となっている。
・先日、愛知県瀬戸市の観光協会の関連で視察に来られ、商店街理事長の野村氏、毎日が浜焼きバーベキューという店を展開している吉田氏、そして私の 3 人がすわ公園交流館で話をさせてもらった。駅前は健全な雰囲気で活気があるという印象をお聞きした。毎日が浜焼きバーベキューというお店は、南勢の生産地の若者たちと売る店とをつないで店を開いているという。
・大規模小売店舗とコンビニがあれば商店街はいらないと言われるが、昔の場所であぐらをかいている商店街は追いつけない状況だと思う。中心市街地が伸びていくには「文化と交流の場のために」という姿勢が求められていると思う。文化振興課の「文化の駅サテライトステーション事業」を活用し、諏訪商店街で昔の映画などを上映しており、年配の人達が集まるスポットとなっている。近年は映画によりまちを盛り上げようという活動で、フィルムコミッションの前段のような活動として四日市映画祭準備委

員会というのを立ち上げた。四日市は様々な映画のロケ地にもなっており、映画祭を開催したいと思っている。また、映画には音楽がつきもので、JAZZ フェスティバルとの連携も当然考えられる。JAZZ フェスティバルで演奏した人達が、普段でも商店街のお店などで生演奏をされ、音楽で楽しめる場所が出てきてまちが元気になりつつある。

・せんだいメディアテークのように、図書館に隣接して音楽や映画などが気楽にできるホールがあるといい。文化会館の南に第一楽器が建てたムーシケという 270 席程のいいホールがある。こういうのが中心市街地にあり、利用料金もできるだけ安くなるとよい。ホールも図書館も、形をつくるよりも中で使うソフトを成功させ、いろんな意見を市民からたくさん出してもらって話を煮詰め、そうした意見が爆発する寸前にハードを計画する方がいいと思う。

委員長

・今までお話しいただいた活動は市が関わっているものもそうでないものもあると思うが、複数の会場において同時進行で活動が行われていくと、市街地の中で回遊性が生まれると思う。もう一つは、今のお話しをお聞きして子どもだけでなく大人が中心市街地で愛でる、大事に育んでいくということが重要だと感じた。

C委員

・イベントの創出は重要なことだが、その次につなげることが課題だということだと思う。このことに関連して、名古屋の都心で栄ミナミ音楽祭というイベントが 9 年行われている。そのスポンサーをしている関係で実行委員会に加わらせていただいている。そこでの集客は各回 100 万人近くということもさることながら、地元商店街や地元の町会が中心となってイベント開催に向けて 1 年前から準備をしている。集客を高めることよりも、準備の過程で毎週集まって議論をすることでイベントのことだけでなく将来のまちのあり方についても意見が出て、地元の雰囲気づくりにもつながっている。

委員長

・担い手に対する支援の仕組みと各拠点形成は一体不可分だと思う。

A委員

・40 年ほど昔、ジョージ・ルイスという有名な黒人ジャズ・ミュージシャンが四日市市に来演、「ヨッカイチ・イッチ（yokkaich　Itch）」という曲を作った。曲の題名しか残されていないが、「イッチ＝むずむずする気持ち」は発信力のある言葉だ。

今年、岡崎市で第 10 回「ジャズストリート」を視察したが、民間企業が大小さまざまの屋根付き会場を提供しており、雨天にも関わらず盛況だった。当日券 4,500 円でどの会場へも入れる方式は参考になった。

映画作りは戦前に四日市農芸高校の前身（河原田農芸中学）でなされた実績がある。現在は映画撮影・編集の器具も発達し、誰でも映画づくりのできる時代となった。各地に映画塾があるが、四日市市でその気運があるのなら、時間をかけて育ててほしい。

花と緑については、四日市農芸高校の学生の提案・参画を期待したい。汗を流して活動すれば郷土愛も生れ、その家族・関係者の関心も呼ぶことができる。市民がボランティアで汗を流して働くのがまちづくりの基本だと思う。

〇意見交換

委員長

・前回 1 回目の意見や本日のゲストスピーカーの活動や資料からキーワードを書いたカードを前面の大きな地図上に貼り出した。これに意見を加えていく形で議論を深めていきたい。

D委員

・四日市は明治から港を先進的に発展させ、今でも東芝の半導体の工場が進出し、コンビナートなどを形成している。新しいことに取り組むということで関連して言うと、今後 10 年の生活を考えた時にスマホを中心とした情報ネットワークの形成がテーマになる。こうしたネットライフは、今は若者を中心に浸透しているが、マイナンバーの導入等もあり、10 年経てば若者が歳を重ねることもあり、生活の中で当たり前になってくると思う。イベントを告知したり人を募集するにもホームページ、SNS(facebook や Twitter など)がますます主流になると予想される。そうした時に、例えば四日市で行われるあらゆる

イベント、税などの行政情報を有機的につなげる「ネットライフのサポートセンター」のようなものが必要になってくる。エストニアがその先進例だと思う。高齢者など情報を使いこなせない市民の方々にも対応するため、サポートする人と場所が重要である。また、低予算で運営することが可能だと思う。

委員長

・行政サービスを含む社会的なサービスの情報をつなぐネットインフラと、それをサポートするセンターということだと思う。ネットにつながっていれば、例えば四日市公害と環境未来館やその他の拠点施設がセンターを担ってもいいということだと思う。「ネットライフのリテラシーセンター」とも言える。

Ｅ委員

・中心市街地は、店舗や飲み屋があるだけでなく、新たにビジネスが始められる環境づくりも必要だと思う。せんだいメディアテークは、元々図書館と美術館・ギャラリーといった縦割り行政に対し、外部で関わった伊東豊雄氏が「メディアをつなげる」というコンセプトで名付けられたと聞いている。魅力的な拠点施設であるとともにプログラムとメディアが連動し、地域の方も巻き込んで上手くいっている。

・今のは新国立競技場Ｂ案の設計者だが、次はＡ案の設計者で隈研吾氏がアオーレ長岡は非常に大きな「なかどま」という空間を駅前でつくり、まちづくり会社のような組織ができて、この場所に来たり情報を見れば何が行われているかがわかるという施設となっている。

委員長

・例えば今の「メディア」や「なかどま」というキーワードを使わずに、四日市で何か新しいキーワードができたら面白いと思う。

Ｂ委員

・大学で教える立場から「学ぶ機会」というのを常に考えている。大学生やビジネスマンは名古屋に行き、そこでキャリアアップをしている状況にある。資格などに直接関係しなくても、例えばＮＰＯのことやコミュニティビジネス、語学などについて、「学ぶ」「みがく」「高める」ことをすればいいのではないか。

委員長

・施設としては図書館がその機能を担うと思うが、今の図書館には何が欠けているのか。

Ｂ委員

・例えばビジネスで経験を積んで退職された方々が市内にもいると思われるので、そういう方々から学ぶ機会を設ける。ビジネスに関する書籍を分かりやすく提供したり、国際化に対応してニッチな言語を学ぶことなどもできると思う。

Ｃ委員

・四日市港との連携というキーワードに関して、四日市港には重要文化財が２つ、潮吹き堤防と跳ね橋があるが、その周りには看板が無く、観光に資する見せ方になっていなくてもったいない。

委員長

・このキーワードは、都市側のまちづくりや市民の活動として、四日市港の旧港は都市軸の延長線上にあり、景観や公共交通などがもっと考えられたらいいということはあると思うがこれは長年の懸案である。臨港地区などの制度上の問題、ＪＲ四日市駅や国道 23 号で分断されるなど物理的な問題もある。簡単な話ではないが、どれだけ港を都市側に引き寄せて考えられるかという課題はあると思う。

副市長

・四日市港は、名古屋港より先に８年早く開港指定され、世界に向けて開かれ、コンビナートや産業がいち早く立地したという先進性がある。一方、跳ね橋（末広橋）などの活用については、臨港地区の分区で工業港区に指定されているため休憩施設などが設置できず、臨港地区の条例の見直しを 7,8 年かけて行い、ようやくその可能性が出てきつつある。自己否定するわけではないが、四日市は歴史や先進性があるにもかかわらず見せ方や出し方が下手だと思う。

Ｃ委員

・四日市港は中心市街地のエリアからは外れているが重要な資源であり、旧東海道も資源として考えられる。

委員長

・前回、43 番目の宿場にちなんだ四十三（よそみ）茶屋の話が出ていたが、近現代の歴史だけでなくもう一つ前の歴史（江戸以前）にも１つの題材・テーマに使えるかもしれない。例えば、名古屋や岡崎は城

下町で町割や堀割が資産としてまちに使えていて、岡崎の図書館交流プラザ「りぶら」などは施設の中にもまちをつくっていてオープンスペースや水景なども上手く創出している。

A委員

・四日市市の名前の由来である「市」という名のイベントは行われているのか。地域のアイデンティティを考えるとき「市」という言葉は伝わりやすい。超高齢化の時代、アンティーク・マーケットへの関心も高い。（参考＊名古屋大須観音の市）

事務局

・最も古くて大きい市は見た三滝通りにあるもので、他にも何カ所かで市が開かれている。近年、ＪＲ駅前で民間の方がマルシェのような形態で市をはじめている。骨董市に近いものは、諏訪新道で行われている。

〇参考事例についての資料提供

C委員

・前回の委員会では、図書館に限らず様々なキーワードが出された。市民交流や地域コミュニティという観点で見たところ、おもしろい事例があったので幾つか紹介する。

まちライブラリーは、全国に253カ所あり、事務所、大学、お寺、個人宅、アウトドアなど様々なスペースで展開されているという面白い事例。その中で、大阪のもりのみやキューズモール内で展開されている事例を紹介すると、ショッピングセンターの中で市民参加型で展開され集客につながっている。また、三重県には松阪にあるのが唯一である。

武蔵野プレイスは、図書館機能、生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の4つからなる施設で、武蔵野生涯学習振興事業団という1つの団体が一括して指定管理者として運営している。各機能が連携し、年140万人の集客がある。

ぎふメディアコスモスは、先ほど話題になった伊東豊雄氏が設計されたもので、図書館を中心に学校連携、ビジネス支援、子育て支援を展開するなど特徴がある。

魚沼市の小出郷（こいでごう）図書館は、中心市街地の商店街の空き店舗を図書館に変えたものとして注目されている。

E委員

・武蔵野プレイスで面白いのは、下層部は若者の居場所（バンド演奏、ラウンジなどを利用）、高層部は高齢者の居場所となるなど世代がミックスして居場所になっている点がある。また、メディアコスモスの場合は館長を公募して特色ある活動をしており、館長も大事だと思う。

〇再び意見交換

委員長

・過去に“ハコモノ”と言われた時代の施設を造ろうとは誰も思っていなくて、中のコンテンツ・品揃えを誰が運営するかが問われている。今のお話しのように館長を公募したり、運営そのものを行政直性でなく民間活力を活かした運営をしている所もある。用途としては多機能複合、ミックスを考えるという方向性もあるが、四日市は30万都市でありそこそこ機能はある。副市長が言われたように見せ方の問題もあるが、コンテンツや品揃え、場所、（市民を入れた）運営なども問題だと思う。例えば図書館を核とした施設づくりもあれば、市民サポートセンターを核とした施設づくりも考えられる。市の施策の骨格として既存の機能を活かしながらどのよう展開していくか、さらにご意見をいただきたい。

副市長

・前提として、平成32年を目標とした今の総合計画を策定する時に、素案の時点では図書館についてリニューアルとしていたが、議会の集中審議があり図書館の次の整備構想を策定することを書けという意見が大勢を占めて位置付けた。さらに平成26から28年度の3年の推進計画の中で、28年度に図書館の基本構想を策定することを位置付けた。

・もう一つの前提として、近鉄四日市駅の北口を降りた所のふれあいモールの一角で、三交不動産が持っていたボーリング場の跡地を売却してパチンコ屋になっている。その時に経済界等から、あの場所は市が買収して図書館など公共施設を建てるべきだという要望活動があった。商店街の活性化に公共施設の

立地が求められているというのがここ 10 年程の動きとしてある。その上でご議論いただきたい。

G氏

・図書館という名前で取り組まない方がいいのではないか。まちライブラリーに関して、教育委員会が商店街の中に本を置く小コーナーを設けようと進めて、年明けには動きだすと思う。商工会議所がまちゼミをやろうと、中心市街地 53 店舗で動き出す。これは大型店ではできない企画だと思う。

・いろんな企画やイベントはあるが、商工会議所でこれらを一つにまとめて発信しようという動きは数年前からある。なかなか上手くいっておらずストップしているのが現状。

・四日市大学の松井先生が、まちなかサポートステーションというのを設置し、なかなか就職に馴染めない若者の就労支援をしており、商店街でのちょっとしたお手伝いを学生がしている。

F氏

・あすなろう鉄道のナローゲージの路線は全国に誇れるものだと思う。四日市駅始発で旧東海道と近い線で走っているので東海道のイベントと絡められると思う。列車の中で音楽イベントを jazz フェスティバルでも実施している。商店街でも映画祭、子どもよっかいちなどのイベントもしているが、上手く連携できておらず、コラボにならずにブッキングしているという問題がある。

委員長

・議論が深まっていないのは、幾つかある。1 つは芸術のあり方について、その種類は市民の芸術、本格的な音楽、美術、パフォーマンスなどいろいろあり、これらのアクティビティがコラボすることが文化会館に根付いていればいいがそうではないとなると、他の方向性が必要。例えばすわ公園交流館の規模では小さく、もう一つ同等のものがあればというお話しが前回あった。そのあたりの可能性検証が一つあると思う。拠点の事例としては金沢市民芸術村（24 時間利用可能、市民芸術を支える拠点など）があると思う。

・2 つ目は教養やグローバル化という視点について、アジアや海外から来る研修センターとして森の交流館・十勝の事例がある。ここは帯広の森を再生していく市民活動が盛んで、ＣO2 削減などグローバルなテーマもあるのでＪＩＣＡが後から研修センターを造った。家族を連れてくるので一定期間、子ども達同士も交流する。そういう機能が四日市で考えられるのか。

・さらに市民や高校生の参加による中央通りの緑の再生についてもある。

・これらを束ねる市民サポートセンターというのも議論が必要だと思う。

・今日は一度議論を広げてみて、次回以降で精査しながらまとめていけばいいと思う。

A委員

・文化施設はいろいろあるが方向性がバラバラの感がある。諸施設を「楽しさ」「面白さ」「遊び感覚」に向けることができれば、もっと広域から人が集まる。

（参考：明石市天文台館長のギャグ満載の説明が大人気）

四日市のキャラクター「こにゅうどうくん」も、もう少し面白くストーリー作りやデザインができるのではないか。

鵜の森神社の境内など、近鉄駅に近く緑豊かな環境であり、民間に任せてユニークな楽しい「市」を開いたり、市民活動の拠点施設を設けることも考えてはどうか。

G氏

・こにゅうどうくんも最近元気になってきている。ゆるキャラグランプリもいい所まで行っている。こにゅうどうくんの映像もできている。

C委員

・グリーンベルトを活性化するのを大きなテーマの一つにしていただきたい。例えば富山県では世界で一番美しいスターバックスがあり、集客している。

D委員

・世の中の先を見る場合、例えば図書館が今の形で残っていく。今や雑誌が売れず、ワシントンポストもアマゾンに買収されネット化しているというのもある。ドワンゴが運営するニコニコ動画は普段はネット上で配信しているが、年に 1 回ライブを開催すると幕張メッセを満員にしている。若者は、普段はネットユーザーであってもリアルな（現実に集まる）場も求めてイベントに集まってくる。今を前提に考えるのではなく、10 年、20 年先に残るものと残らないものを考えるべきである。

Ｆ氏
・女性の活躍、市民の活躍という点でいえば集まる場がない。ボランティアなどの活動で集まろうとすると交流会館があるが値段が高く、結局近くのカフェなどで打合せをする。市民活動で、会場費が経営を圧迫しているというのもある。営利目的でない活動にもっと支援を出していただけたらと思う。
・図書館については、菰野町の図書館は使い勝手がよく、桑名は長い時間開館しているため、四日市の図書館は使わず菰野町、桑名の図書館を使う。建物だけでなくカフェが併設されるなど「中身の緩さ」「気軽に利用できる」というのをお願いしたい。
副市長
・行政がどこを目指すのかというのについてご指摘いただいていると思う。桑名の場合も運営をＰＦＩで民間が運営しているというだけでなく、行政も民間に任せるという感覚があると思う。
委員長
・今後の作業として、一つは全体のビジョン、方向付けをする。もう一つはフレームワーク（枠組み）が重要で、拠点づくりや公共的インフラ整備などのプロジェクト、それに関連するアクティビティ、機能、用途、運営、事業などを整理する。一度事務局で検討し、次回披露させていただきたい。

〇最後に一言
Ｂ委員
・ワクワクできるよう考えをシフトしていきたい。
Ｄ委員
・民間活力という点で、電子図書館、電子母子手帳など何社かは四日市に進出したいというお話が出ている。そういう場合どうすればいいか。
委員長
・まだプロポーザルなどにかけられる段階になっておらず、来ていただいても逆に失礼になるので、まずＤ委員の方で引き取っていただきたい。
Ａ委員
・高齢化が急速に進む中でのプロセス、ネット社会についていけない人も多いので、将来の社会変化も見据えつつ足元も見ていただきたい。そのタイプテーブルが必要だと思う。
委員長
・四日市に住んでいる方も数十年経つと価値観が代わってくるので、
Ｃ委員
・パチンコ屋が問題視されるが、本当に衰退している中心市街地にパチンコ屋は出店しないと思うので、まだ活性化の可能性はあると思う。昼間はまちなかは閑散としていてもパチンコ屋の中は満員ということであれば、パチンコ屋に行く人もまちなかへ出すなど人を引き寄せる工夫も必要だと思う。
Ｅ委員
・四日市だけでなく、様々な自治体で公共施設の全体像をどういう方向で考えるかという時期に来ていると思う。いろいろ活動していても個々バラバラで動いているということもあり、全体のビジョンが必要だと思う。